

「H な写真のためなら我慢するよ」 Monkeys pay for sexy pics

アカゲザルは、もらえるジュースを減らされたとしても、群れのリーダーの顔やメスのお尻の画像を見たがる。

Michael Hopkin news050131-5/1 February 2005

サルにとっても、見るものの価値には大小があるようだ。このほど米国で発表された研究によれば、アカゲザルは、対価を支払ってでも、自分の仲間内で力のある者や性的関心を寄せる者の画像を見ようとする事が明らかになった。

この発見は、デューク大学(米国ノースカロライナ州ダーラム)の神経生物学者たちの共同研究によるもので、人間が新聞を読むために金を出すように、サルも社会生活にとって有益な情報を得るために犠牲を払うという学説を裏づけている。

今回の実験で、オスのアカゲザルは、自分が所属する社会の中で支配的な地位にあるアカゲザルの顔やメスザルの後四半部(後脚と臀部)の画像を見るためにフルーツジュースという「対価」を支払った。野生のサルは、群れのリーダーの動向に目を配り、性的受容性のあるメスザルに目をつけることで自らの適応度を高めている。

サクランボジュースという対価

今回の研究では、捕獲して飼育しておいたオスのアカゲザルに次の2つの選択肢から1つを選ばせる実験が行われた。選択肢Aでは、サクランボのジュースを1杯飲む。選択肢Bでは、同じ群れの他のアカゲザルたちのさまざまな様子の画像を一枚だけ、0.5秒あまり見られるが、飲むジュースの量は選択肢Aよりも多くなったり少なくなったりする。

このようにジュースの量を変えることで、アカゲザルがそれぞれの画像をどの程度評価しているのかを調

べようとしたのだ。「アカゲザルは基本的にジュースにうるさく、量のちがいにとても敏感になっていた」と語るのは研究チームの一員であるRobert Deanerだ。

Current Biology に掲載されたDeanerたちの研究論文¹によれば、アカゲザルは、力の強いオスザルの顔やメスザルの会陰部を見るためならばジュースの量が減ることを受け入れた。しかし自分よりも地位の低いオスザルを見つめさせるには、ジュースの量を増やしてサルのご機嫌をとる必要があった。

社会情報を得ることには利点もあるがコストも伴う、とDeanerは説明する。「サルが別のサルを長い間じっと見つめていると、相手のサルから攻撃を受ける危険が生じる」。この点は人間も同じで、見ず知らずの人にじっと見つめられると、居心地が悪くなることを考えてほしい。

だから、この実験で一番ジュースの量を減らされてもサルが見たがった画像がメスザルのお尻だったのも当然のことと言える。「ほぼすべてのオスザルは、メスザルの後四半部の画像を見るためにジュースを我慢していた。この画像の価値は本当に高かった」とDeanerは語る。

実際に顔をつき合わせても同じ行動パターン

今回の研究結果はサルの世界でのポルノグラフィーではなく、むしろ性的受容性の評価と関係している。野生の世界では、性的受容性は、メスの行動や匂いとも関係している。今回の実験では、アカゲザルの側に必

ずしも画像を見ているという認識があるとは限らないため、実験時の行動パターンは、仲間と実際に顔を付き合わせている時にとると考えられる行動パターンと一致する、とDeanerは説明する。

動物が、さまざまな社会的交流をどのように比較秤量しているのかを学べば、人間の自閉症の解明に役立つかもしれない。こう考えているのがDeanerの同僚であるMichael Plattだ。自閉症の人は、他人を見る意欲が湧かず、実際に見ることがあっても、そこから情動情報を得るのが上手ではない。

さらに、今回の研究は、人間がゴシップ雑誌に心を引かれる理由を解明する上でも役立つかもしれない、とDeanerは言う。セクシーな人々や影響力の大きな人々のことを定期的にチェックしたいという衝動は、人類が部族単位で生活していた時代に生じた可能性がある。その頃は、部族の有力者の行動が部族の構成員の生活を左右していたと推測される。Deanerの言った言葉がある。「私たちの生活がハリウッドによって左右されるわけではないのだが、ハリウッドについて知っていれば、ある程度の文化資本が得られると今でも思われているのだ」

参考文献

1. Deaner M. O., Khera A. V. & Platt M. L. *Curr. Biol.* published online <http://www.currentbiology.com/content/article/abstract?uid=PIIS0960982205001041> (2005).